

最新の i p s 細胞の最新情報について

北海道支部長 深瀬 和文

今回皆さまのご好意により 1 月 15 日、東京で山中教授出席による最新の i p s 細胞の講演に出席させて頂きました。

会場には 1 時間前に着きましたが既に長い行列が出来ており一般の方はもちろん医療関係者、報道関係者、障害者団体など約 1000 名位集まり、この i p s 細胞の関心の高さを改めて実感しました。

まず皆さんが i p s 細胞で思い浮かべる事は再生治療の事を思い浮かべるかもしれません。

例えば i p s 細胞で心臓を作ったり肝臓を作ったり臓器を再生する事を考えますが、ALS の治療では i p s 細胞を使って新薬の開発に期待されています。

詳しく説明しますと今まではなぜ病気の原因が分からなかったかと言うと最大の理由は ALS に侵された人の生きた運動ニューロン細胞が採取出来なくて色々な実験が出来なかった事です。

しかしこの i p s 細胞を使って生きた運動ニューロン細胞が採取できるようになりました。それによって健康な人の皮膚の細胞からは侵されていない運動ニューロン細胞を作る事ができ反対に ALS の患者さんの皮膚の細胞からは ALS に侵された運動ニューロン細胞を作る事に成功しています。2 つの細胞を比べたところ遺伝子レベルでは 20% 位の違いが見つかりその 20% の中に病気の原因があると思われます。

ついこの間までは ALS のラットを作る事に成功したと聞いていましたがそのラットで研究実験した結果ラットでは薬が効いても人間に試すと効かないという状況が続いているという話を聞いていました。

しかしこれからは ALS に侵された細胞を直接実験する事が出来るようになり、しかも新薬が開発されたならば自分の細胞で作る薬なので拒絶反応の心配もまったくありません。今、5 年をめどに新薬の開発を行っています。ですが、課題も多いです。例えば人によって ALS の発症の仕方が違うように新薬も人によって違う薬を作らなくてはいけないかもしれません。そして今話した事はあくまでも進行を止める話であって、病気が進行した人については、まだ i p s 細胞での治療は確立されていませんが、i p s 細胞を発見して 5 年目でこんなに早いスピードで技術が進歩しているのです。

私たち患者で、今も進行している人も治せる技術が確立されると信じています。

今、研究所では約1万通りの薬の中で何が有効か24時間機械を使って実験中だそうです。

早い時期に効果のある薬が発見されると願っています。

一昨年、慶応義塾大学の岡野教授が「5年前まではALSの治療に関しては真っ暗だった。でもi p s細胞の誕生により光が見えてきました。」と言っていました。今年になってその光が段々と明るくなってきたと私は感じました。

最後に、山中教授が我々ALS患者に対して絶対に見捨てないから頑張っ
て生きて下さいと言って下さいました。私たちも希望を持って諦めずに穏やかに生活をしていきましょう。

